
【2】 関連団体等の活動

∞ **

●脳損傷者ケアリングコミュニティ学会のプレシンポジウムが開催されました

2月28日 ベルサール神田 詳細は >> <http://caring.co-site.jp/sub1.html>

○ハイリハ東京のメンバー 寺田健太さんがデザイン作品の個展を開催

3月16日～22日

銀座幸伸ギャラリー、無料

TKKリーフレットやシンポのチラシをデザインしてくれている寺田さんを応援下さい

http://www.brain-tkk.com/index/show_board.php?boardAct=view&readNum=123

○第8回ドリームサロン～高次脳機能障害を、知ろう、語ろう、もっと身近に～

3月22日(日)午後1時～4時、調布総合福祉センター4階 主催：調布ドリーム

【3】 行政等の活動

∞ **

●第2回北多摩南部高次脳機能障害者支援地域ネットワーク連絡会、

1月21日(水)夜、武蔵野スイングホール

==== 当地域拠点病院の武蔵野赤十字病院の富田院長からは、最初の頃から比べると、東京は随分取り組みが進んできているが、医療の現場で高次脳機能障害と判っても、高次脳機能障害者が来ても行政にどうつなげて良いかわからない、なかなか繋がっていかないとこの言葉があり、支援が切れることなく繋がるのがまだまだ構築されておらず、大きな問題がここにあると思いました。

当地の第三次救急病院である杏林大学病院の岡島先生の「脳外傷リハの実態（青壮年高次脳機能障害者の問題）」で注目すべき報告がありました。脳卒中などの高次脳機能障害者は「ADL」に問題を残す傾向が大きいですが、脳外傷者の場合は、医療リハで例え「FIM」で百点満点近くとれる程に回復しても「FAM」で問題がある。つまり「ADL」が問題なのではなく、社会的不利が問題になってくる。環境因子が大切なのだが、そのあたりのコンセンサスが得られていない。高齢者の脳卒中の場合、脳卒中医療連携パス、脳卒中地域連携パスなどの支援プログラムが既に構築されている。若い当事者のゴールは高い。しかし青壮年高次脳機能障害者の支援プログラムが無い、これが問題でもあるとのこと。

各地域の行政／福祉支援者からの報告では、地域性からか高齢の高次脳機能障害者の支援についての報告が多く、高次脳機能障害なのか認知症なのか、判断がむずかしい事例も

多々あるように思いました。しかし終始、活発な報告で埋まり、1回目に比べると取り組みに格段の違いが感じられ、嬉しく思いました。

==== 細見（記）

●東京都相談支援従事者研修、1月30日（金）午後、社会福祉保健医療研修センター
高次脳機能障害について、当会会員の家族が講師を務めました

==== ハイリハ東京の小澤さん、小宮さん、家族会の小林さん達など当事者自身が体験談を発表されました。その方達の随分以前のことを知っているのです、こうして体験談を立派に発表される姿を拝見し感無量でした。==== 田辺（記）

●区西南部・区南部「合同」高次脳機能障害者支援地域ネットワーク連絡会
2月9日（月）夜、JR東京総合病院

議題：医療サイドからの支援の広がり、在宅生活を進めるための取り組み、その他

==== 比較的、回復期病院の多い区西南部（渋谷・目黒・世田谷）と、急性期病院の多い区南部（品川・大田）の「合同」地域ネットワーク連絡会でした。

この地域は、前日のテレビ「闘うリハビリ II」で放映されたように、メディアに頻繁に登場するリハビリ病院が多い地域であることから、医療関係の熱意が感じられ、非常に多くのブロック内医療機関関係者が参加して、自治体や当事者・家族会も加わり、会場は溢れるばかりの盛況振りでした。

日産厚生会玉川病院の和田先生による「高次脳機能障害への取り組み」についての発表がありました。「当病院の入院は主として回復期脳卒中者が対象であること、従って75才以上が7～8割を占め、高次脳機能障害を持った患者が比較的多い。失語症が約3割で軽症例は少ない。当病院が担っている役割は在宅生活までの準備的役割」とのことでした。発病前勤務があって失語症の軽い場合や注意、前頭葉障害などの場合は復職（18名中7名）出来たりするが、重度失語、重度麻痺の合併や遂行機能障害は復職は簡単ではない、とのことでした。

しかし、このブロックの自治体の場合、世田谷・目黒区などが高次脳機能障害の取り組みに非常に先進的・積極的であるのに対して、渋谷・品川区は未だにネットワークさえ出来ていない模様にはガックリ。太田区が当事者会が出来たりとか自治体から熱心に取り組む姿勢が伺えたりしてホッとするなど、取り組みについて地域格差が感じられるブロックでもありました。==== 細見（記）

●第5回 多摩高次脳機能障害研究会 講演会

2月17日（火）夜、国分寺いずみホール 200名参加

第1部「高次脳機能障害 特に注意障害と遂行機能障害」

国際医療福祉大学三田病院 神経内科 部長 武田 勝彦 先生

第2部 TKKからの提言—当事者家族の声—

司会：首都大学東京 渡邊 修先生

1. 「生きていて良かった！と思えるように」…ハイリハ東京 鈴木真弓副代表
2. 「当事者・家族の思い」 …サークルエコー 高橋俊夫副代表
3. 「本来の人生を取り戻したい！！」 …TKK 細見みゑ理事長

●第4回 高次脳機能障害者相談支援体制連携調整委員会、

2月24日（火）夜、都身障

議題：平成20年度における支援普及事業の実績報告、平成21年度の予定

出席者(委員)；学識経験者：渡邊修教授、武田克彦医師、辻哲也医師、橋本圭
司医師、医療機関、関係団体、精神保険関係機関、就労支援機
関、福祉関係機関、区市町村、当事者団体 (TKK 細見みゑ)
オブザーバー：都医療政策課、今井雅子 (TKK)

議事内容：平成20年度における支援普及事業の実績報告他

資料説明：

- ・高次脳機能障害支援地域ネットワーク連絡会について
地域リハビリテーションセンター図
- ・高次脳機能障害支援普及事業相談支援実績 (08.4～09.1)
- ・第2回 高次脳機能障害者相談支援研修会 (08.10.30)
- ・第2～4回 高次脳機能障害者相談支援連絡会
- ・2008年度版 高次脳機能障害の理解と支援の充実をめざして
リーフレット 高次脳機能障害の理解のために
- ・就労準備支援プログラムの実施状況
リーフレット「脳に損傷を受けた人が再び働くために」
- ・21年度高次脳機能障害支援に係わる事業案 (未確定)

==== 数々の実績報告や予定発表の中で、東京都の21年度高次脳機能障害支援普及の主な事業の「基本的考え方」について特記します。

- (1) 電話相談 (所内支援チームによる支援、専用電話相談における的確なケース)
- (2) 地域ネットワーク構築 (事業推進コンセンサス、地域ネットワーク連絡会開催)
- (3) 就労支援 (就労支援準備プログラムの展開、就労支援機関との連携強化と連絡会議参画機関活用事業の検討)、
- (4) 人材育成 (相談支援研究会の展開、区市町村相談員の支援力向上)
- (5) 広報・普及開発 (パンフレット・ホームページの内容充実と継続的普及啓発、地域支援ハンドブック)の22年度改訂に向けて)
- (6) その他 (*相談事業などを通じた当事者・家族会との連携、*学齢期発症の障害児について、実情把握と関係機関との協議を含めた支援の検討)

等々が述べられた。次年度の高次脳機能障害支援普及事業が益々強化されんことを期待して止みません。 ===== 細見（記）

●**国立市相談支援充実・強化事業 主催：社会福祉法人 多摩棕櫚亭協会**

3月7日（土）午後、地域活動支援センター なびい

第一部「高次脳機能障害の基本的理解と取り巻く状況」田中真知子氏

第二部「当事者・家族の声」矢田千鶴子氏ほか調布ドリームのメンバー

===== （調布ドリームの参加者-当事者の夫） 第二部で矢田代表が調布ドリームも含め家族会について話され、そのあと当事者4人、家族3人がそれぞれに体験発表をしました。50人位の会場一杯の皆さんが真剣に耳を傾けてくれました。私は、家内が3年前にクモ膜下出血で倒れて以来、慣れない主夫生活と介護の日々で、苦しく辛く、空を見上げる事も忘れ、退院後は人目が気になり障害を隠し、話す事にもためらいがあった。幸いにも調布ドリームに出会い、悩みは一人で抱え込めない、閉じこもらない。人と会うこと、話すこと、身体を楽しく動かすのが、最良のリハビリと実感できるようになった事など話しました。自分の思いの半分も伝える事が出来なかったような気がしますが、ドリームのメンバーが並んで、それぞれの思いを話せたことは、とても良い体験でした。=====

○**公開シンポジウム 3月28日（土）13：00～ リーガロイヤルホテル東京3階
発達障害児（者）と高次脳機能障害児（者）の家族にとって「いま、必要な相談とは」**

主催：財団法人パブリックヘルスリサーチセンター

後援：NPO法人東京高次脳機能障害協議会・NPO法人東京都自閉症協会・

早稲田大学教育総合研究所

厚生労働省障害者保健福祉推進事業

詳細は >> <http://www.phrf.jp/seminor/symposium.html>

【4】メディアでの報道

●**2/8（日）午後9時00分～9時59分、NHK 総合テレビ**

「闘うリハビリII ～寄せられた“声”をたずねて～」が放送されました

懸命にリハビリに取り組む当事者の切実な声が印象的でした

リハビリ医師 道免先生が番組内容について詳細にコメントしています

道免先生のブログ >> <http://blog.goo.ne.jp/craseedblog/m/200902>

●**東京都社会福祉協議会「福祉広報」2月号に細見理事長が寄稿**

テーマ「違いをこえてつながる高次脳機能障害者支援の取組み」

TKK設立の経緯、若い当事者の実態と生活困難、重度高次脳機能障害のケース、本来の人生を取り戻す支援等について、都やNPO法人VIVIDの調査をもとに解説

【4】TKK役員より

＊ ＊

会の活動の中で・・・

理事 小澤京子

高次脳機能障害に関わって、早11年。長いとか短いとか考えもしない時の流れの中で、当事者の息子と共に歩んで来ました。その中で一番心強かったのは、同じ境遇の方たちと出会えた事です。

ハイリハ東京という高次脳機能障害者とその家族で活動している中で、月に何件か相談のメール、電話を頂きます。高次脳機能障害になって1年未満の方、数十年経っている家族や当事者、そして高次脳機能障害の相談を受けている福祉・医療関係者など、様々な立場の方々からです。

特に相談窓口を設けている訳ではありませんが、東京都のパフレットやハイリハ東京のパフレットを見て連絡をいただく方が多いようです。ご相談の内容で多いのは、「今入院している病院がそろそろ転院の時期に来ています、次は何処の病院がいいですか?」、「同じ立場の方たちの情報が欲しいです」などで、東京だけでなく地方からのご連絡も多数いただきます。地域の福祉課の窓口にご相談に行く事もお勧めしますが、高次脳機能障害に関して情報の差が有り、相談に行ったが無駄だったという声も少なくありません。私の経験を生かして「生の声」でお答えできる場合は良いのですが、分らない事もたくさんあります。そのような場合はTKKメンバーにお願いするようにしています。10団体が結束した東京高次脳機能障害協議会（TKK）は情報が多く、各会の繋がりも理事会を増すごとに強くなっていると思います。

今年度実施したボランティア（支援者）養成講座もひとつの会ではなかなか実行できる事ではありません。理事会で相談して役割を決め、各会の協力で成り立っていると思います。これからTKKのメンバーが増えてくるとと思いますが、各会の繋がりを大事にしてスムーズに運営できるよう、微力ながらお手伝いしていきたいと思っています。

相談の件に話を戻しますが、突然、家族や知人が病気や事故で高次脳機能障害になってしまった戸惑いや不安は、自分一人で抱え込む事はできません。私は当事者を持つ立場、そして今までの経験が少しでもお役に立てれば、という思いで今後も活動していかなければと自分に言い聞かせています。

以上

=====

2009. 3. 15 以上